

教材・支援機器活用実践事例

【肢体不自由のある児童への学習に参加するための支援】

| | | | |
|----------------------|---|---|--|
| 子どもについて | 学校・学級・学年 | 小学校 通常の学級 6学年 | |
| | 対象の障がい | 肢体不自由（脳性まひ） | |
| | 授業形態 | 集団学習 介助員が支援をしている。 | |
| 学習上又は生活上の困難さ | 子どもの特性や教育的ニーズ | <p>両足が不自由なため常に電動車椅子を使用している。両手は少し動く程度で鉛筆を指で挟んで文字を書いているが、筆記はかなり困難である。食事はスプーンで食べられるが、家庭科や図工などの作業的学習は困難である。体育は見学しているが、プールには浮き具をつけて入ることができる。2階への移動は階段昇降機を使用している。</p> | |
| 教材・支援機器活用 | 使用した支援機器・教材の名称 | 車椅子用の机 タブレット すべらない下敷き ノートパソコンとトラックボール ワニロクリップ シャワー用の車椅子 浮くための腕輪 | 【画像】  |
| | 活用のねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・両手が少しでも動きやすいように補助をする。 ・文字は書けるが判読しにくいいため、ノート代わりにタブレットを使用する。タブレットには、教師が○をつけることもできる。 ・鍵盤ハーモニカのアプリを入れ、タブレットで演奏する。 ・作文を早く楽に書けるようにするため、特別のマウスとノートパソコンを使用。 ・家庭科や水泳学習に参加できるようにするために活用する。 | |
| 授業における支援 ・教材の配慮事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・支援機器を使う目的を、本人や家族が理解して使用する。また、職員間でも目的や使い方の共通理解をはかっておく。 ・学級の児童は理解を示しているが、クラブ活動や鼓笛等他学級の児童にも機会をとらえて紹介していくようにする。 | | |
| 子どもの変容や評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・手動の車椅子から電動車椅子になったときに、自ら生き生きとして移動する姿がみられた。そのときと同じように、少しでも動きが楽になったり、できる範囲が広がったりすることで、本人が意欲的に学習活動に参加できるようになった。 ・ワニロクリップと刺繍枠で布を固定し、縫う作業に取り組むことができた。難しいと思われた縫物ができ、評価につながった。 ・タブレット（ホワイトボード）により、文字を書くことや計算がしやすくなり、判読も容易になった。教師がすぐ○をつけることもできるので、授業中に評価がしやすくなった。 ・タブレット（鍵盤ハーモニカ）により、鼓笛演奏、行進が容易になった。 | | |